

## 【水の作文大賞】

「水は無限？」

熊本県 真和中学校

1年

木下航きのした わたる

「空は青く澄み渡り海を目指して歩く、怖い物なんてない、僕らはもう一人じゃない。」

これは、コロナ過で色々な制限があった時によく聴いた曲で、楽しみに観ているテレビ番組「アイアム冒険少年」の主題歌だ。なかでも「脱出島」の企画が僕は大好きだ。虫が苦手で、日焼けが怖くて極めてインドア派の僕でも毎回引き込まれるように見ている。

挑戦者はみな無人島に着くと必ずすることがある。「飲み水」の確保だ。インターネットで調べてきた方法や経験から得た知恵や根性で自らの飲み水を作る姿はカッコいいし、いつも憧れる。ひたすら無人島を歩き回り、雨水や小さな水だまり、くぼみに溜まった泥水、海水を飲み水に換えるが、決して楽な作業ではないし量もとれない。テレビでは臭いが分からないが、苦勞して得たわずかな水を宝物のように一口ずつ味わう。あの水はどれくらい美味しいのだろうか。

僕が住む熊本市は「水の国くまもと」と呼ばれ、豊富な地下水に恵まれている。

確かに蛇口をひねると当たり前前に飲める水がでる。コンビニや通販などを利用すれば、自分好みの水を手に入れられる。美味しい水を使えば白米も味そ汁も緑茶も間違いなく美味しい。しかも安心して口に運べる。県外で暮らしたことがない僕は、正直今まで不味い水を飲んだことがなく、そこまで有り難みを感じて飲むほどでもなかった。

小学校の校外学習で「阿蘇の水基めぐり」をしたことがある。阿蘇神社の境内から湧く「神の泉」は不老長寿の水と崇められているそうだが、プクプクと生き物のように湧き出す水を観たのも初めてで驚いたが、名所に「学業の泉」や「金運の泉」など名づけがされていて、昔の人々が水にどれだけの思いを寄せ、大切に大切に守ってきたのか、気付かされた。

また、僕の祖父の家では庭に雨水貯留タンクを作り、植木の水やりにも利用している。これはかなり節水になり、停電や災害の時も役に立つ。水が近くにあるという安心感が生活を豊かにする。昔の人ほどすでに自然の恵みや怖さを知り尽くし、大切に向き合っていることを改めて感じた。

熊本市は二十年ほど前から市民一人一日当たりの生活用水使用量目標を二百リットルに揚げ、一人一日二リットルの節水を呼びかけている。九州の中でも水の使用量は多いそうだが、いぐさやスイカ、トマトなどの特産物も栽培に水が多く必要なものが多く、仕方のないことかもしれない。

では、僕が出来ることは何だろう。

一日の生活を振り返ってみた。洗濯の風呂水利用や歯磨き、手洗い時のながら流しをやめる。家族にも呼びかける。三リットルの節水ならちよつとした心がけの積み重ねで達成できそうな数値だ。

世界では約二十億人が安全な飲み水を入手できない状況だ。僕には日常の小さな心がけ、そんなことしかできないけど「水は無限にない」ということを心に留めて過ごしていきたい。セカイのオワリを迎えないために。